

D 29 学習机・椅子の高さに関する研究
——中学生の使用実態——
新潟大教育 五十嵐由利子

目的 学校においては勿論のこと、家庭においても学習する際には、ほとんど机・椅子が使用されているが、それらの体位への適合状態に関する研究報告は非常に少ない。そこで、本研究は学校用および家庭用の学習机・椅子の高さの、体位への適合状態を、中学生を対象に使用実態調査を行ない、問題点を明らかにすることを目的とした。

方法 新潟県内の国公立中学校4校の生徒1579名を対象に、身長・座高の計測および学習机・椅子に関するアンケート調査を実施した。身長・座高の計測値より各生徒の机・椅子の適合高さを算出し、その値をJISをもとに号数化した。また実際使用している机・椅子の高さについても同様に号数化し、比較検討した。

結果 (1) 学校用学習机・椅子の場合、体位に適合した机・椅子を使用している生徒の割合はそれぞれ12.2%、8.4%と低く、22.5%の者が高すぎる机、22.7%の者が高すぎる椅子を使用していた。また差尺についても適合率は16.1%と低く、56.2%の者が大きい値であった。しかし、高すぎる机・椅子を使用しているにもかかわらず、「ちょうどよい」と感じている生徒は、机では73.1%、椅子では75.8%であった。(2) 家庭用学習机・椅子については、高さ調節可能な机を使用している者が66.0%、椅子では83.4%もありながら適合率は机が11.3%、椅子が11.6%と低く、78.7%の者が高すぎる机、75.7%の者が高すぎる椅子を使用していた。また差尺についても適合率は9.2%と低く、57.8%の者が大きい値であった。しかし、高すぎる机・椅子を使用しているにもかかわらず、「ちょうどよい」と感じている生徒が、机で77.6%、椅子で80.4%であった。